



2024年2月14日

各位

会社名 か っ こ 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 CEO 岩井 裕之
(コード番号: 4166 東証グロース)
問合せ先 経営管理担当執行役員 中沢 雄太
(050-3647-4166)

特別損失(減損損失)の計上および業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において2023年12月期(2023年1月1日~2023年12月31日)において、特別損失(減損損失)の計上を決定いたしました。また、2023年2月13日に公表いたしました2023年12月期通期業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 特別損失(減損損失)の計上について

当社の保有する固定資産について、2023年12月期に発生した主要取引先の取引停止の影響により、売上および利益とも前期を大幅に下回ったことで、現在の事業環境及び今後の業績見通し等を勘案し、将来の収益を保守的に見積もり慎重に検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき201百万円を特別損失(減損損失)として計上することといたしました。

2. 業績予想値と実績値の差異について

2023年12月期通期業績予想値と実績値との差異(2023年1月1日~2023年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
当初発表予想 (2023年2月13日)(A)	933	△187	△190	△190	△72.33
実績値(B)	952	△108	△117	△320	△121.13
増減額(B-A)	18	79	72	△130	△48.80
増減率(%)	2.0	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (2022年12月期)	1,076	176	154	100	38.16

3. 差異が生じた理由

売上高につきましては、概ね当初の予想値通りで推移いたしました。営業利益につきましては、前期に引き続きO-PLUXアーキテクチャ刷新による減価償却費のほか、セールスマーケティング・カスタマーサクセスを中心とした増員による体制整備、海外事業展開のためのテストマーケティング・ローカライズなど将来の収益獲得に向け



た取り組みに投資をしつつ、費用の最適化をおこなったことで計画よりも79百万円上回り△108百万円となりました。しかし、上記1に記載した特別損失（減損損失）を計上したことにより、当期純利益につきましては業績予想値から130百万円下回る320百万円となりました。

以上